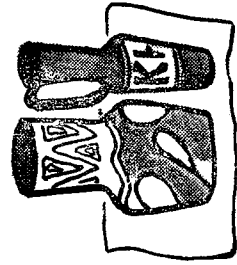


◆ 領収書の保存について

これは大切なものですので少なくとも二年間は大切に保管しておいて下さい。

◆ 住所、勤務場所の変更等について

連絡、配本等に関係の深い住所、或は勤務場所が変わった時は必ずそして成るべく早く事務局までご連絡下さい。配本の間違いや遅延、未着等をさぐり上からも是非共に連絡をお忘れになりませんようお願いする次第です。



前橋市城裏町二丁目三の三  
群馬県立図書館内

みやま文庫事務局

電話 前橋 三二局 三〇〇八番  
振替東京 一四二五九番



みやま文庫

会 報

No. 15

44. 3. 10

編 集 部 よ り

みやま文庫も昭和四十四年で早くも発足以来十年目を迎えることになりました。この間に刊行して皆様のお手許にお届けできた冊数も三十三冊を数え、創刊以来のバックナンバーもますます厚味と重味を増しております。これひとえに会員諸賢の温かいご指導とご鞭撻の賜と一回深く感謝している次第でございます。

さて発足以来（十年目）、刊行開始から（九年目）、の昭和四十四年度は次のような刊行を予定しておりますのでご了承下さい。

- 一、上州の民家（故矢島耕氏遺稿集）
- 二、中 仙 道

三、バスの窓から

四、尾 瀬

五、上毛剣豪史……以上の中、四冊。

「上州の民家」は多年前橋市文化財専門委員として、また市井の民俗研究家として、さらには児童文学の先達として県内古建築の研究、解明に力をつくされ、昨年末逝去された矢島耕先生の民家関係論文をすべて収録したものであります。古建築の失われるものが多い昨今貴重な資料としてまた県民性、国土性を知る手がかりの一つとして皆様方のご期待に応え得るものと考えております。

「中 仙 道」は一昨年「例幣使街道」、昨年「三國街道」に次ぐ街道シリーズの第三巻として遠い万葉の時

代以来、上毛のメインストリート中仙道を各宿ごとに余すところなく綴るもので、執筆者はいづれも永年にわたって中仙道と取りくんでこられた方々であります。

「バス窓から」は県内重要なバス路線毎に、各沿線の風物、歴史、史蹟、伝説、民謡等を読物風に集録するものでマイカー時代の日曜郷土研究の好個の手引きとして親しまれるものと考えております。

「尾瀬」は本頁が全日本的に、国際的に誇る観光資源の秘境を主として文化財保護の見地から、かつ調べ、かつ訴えようとするもので、執筆陣には文化財保護委員会のグループを予定しております。

以上のほか、並行して

「上毛制鉄史」を上毛新聞社の小西編集次長に執筆を依頼しておりこの中より早く完成したものを四冊をお届けすることになっております。

### ◎みやま文庫十周年記念出版について

当文庫発足十周年の記念事業として、バック、ナンバーの内、つとに好評の「赤城」「榛名」「妙義」「利根」の四冊を三山一水シリーズとして複製再版する予定をしております。この四冊は発行当時の会員数に応じて印刷した

### ◆会費の値上げについて

昭和四十二年予算案の終り備考にあげた説明をどうぞよくごらん下さい。この説明のように赤字繰越しがつつく上、印刷費その他の諸経費を最低単価で計上しましたが実質的に他からの値上げにおされて赤字は更に累積することはさげられない状況です。そこで四十四年度は強力に経費補助金の増額をお願いしたり又会員各位にも十分ご理解いただき会費の値上げにご協力を賜りますようお願いする次第です。

この事について先般開かれた理事会、運営委員会に於てもその止むを得ない事情が認められ会費値上げについて次のように承認されましたので、よろしくお願い申し上げます。

記

一般会員 一口 金一、五〇〇円 (年額)

郵送会員 一口 金一、七〇〇円 (郵送料共年額)

関係から在庫が全くなく、古書市場での価格も高いところから新規加入会員、その他各方面から再刊を熱望されていきますので、それに応え敢えて複製する次第です。このセットご希望の方は、はがきでも、電話でも結構ですが事務局まで成るべく早く申し込んで下さい。出版部数に限りがありますので先着順に処理したいと思っております。尚一組の頒価は二千円、郵送の場合は百二十円増し、とし配本は七月よりと予定しております。代金払い込みは振替、小為替、現金書留め、直接持参、何れでも結構ですが成るべく早く予納して下さい。図書は代金を納入した方から順次発送するようにしたいと存じます。尚再々刊はいたしません。

### 事務局より

四十三年度もあと残り少くなり又新しい四十四年度を迎えることになりました。毎度のことながら出版、配本がおくれ何とも申し訳ございませんがあしからずご了承下さい。

次に例によって、いくつかのご連絡やらお願いを申し上げますが、この中には非常に重要な事項もございますので単に事務上の連絡として読みすごすことなく、十分ご理解の上ご協力、ご実行下さいますようお願い申し上げます。

### ◆会員の継続について

これは毎年度の切りかわりに一応お願いしていることですが、まず出来る限り全会員がご継続下さるようお願いいたします。若し止むを得ない事情でご退会になりたい方は必ず五月末日まで当事務までお申し出下さい。若しそのご連絡がない場合はご継続下さるものとして処理いたしますのでご了承下さい。

### ◆会費の前納について

会費は六月末日迄に是非前納して下さいませようお願いします。これは会員制をとっている本会の運営上非常に大切なことです。即ち会員が会費を出し合って図書をつくり之を頒布合うわけですのでこのご協力が無いと運営が出来なくなるわけです。どうぞ皆様よろしくお願いいたします。

収入の部 昭和43年度予算案

科目	予算額	説明	明
会費	2,900,000	員会費 前年度未取分 次年度借入充当	2,840,000 - 136,616円 60,616 136,616
補助金	350,000	県補助金	
寄附金	10,000	寄附金	
繰越金	0		
雑収入	142,000	既刊図書分売費	予金利子
計	3,402,000		

支出の部

科目	予算額	説明	明
人件費	424,000	職員給与一名分 旅費	400,000円 賃金12,000
会議費	40,000	理事会、運営委員会、各種会議費	
原稿料	240,000	原稿料、執筆諸費	
編集費	90,000	資料調査費 編集諸費	
印刷費	2,344,000	文庫四巻印刷費 会報印刷費	
発送費	140,000	郵便料、配本料、自動車料	
事務費	84,000	事務局費、備品費	
諸費	30,000	普及宣伝費	
予備費	10,000		
計	3,402,000		

備考 上記収入の部の会費説明欄について、当年度分は現在会員（予備編成時2,450人）を基本として2,840,000円として入りましたが、42年度収入へ136,616円を充当したためで2,703,384円と来ず、即ち136,616円赤字となるわけですが、そのマイナース分を同額44年度分から充当しまして、この予算案の収支を見ようとなりました。従って44年分は又ははじめから136,616円赤字の上、印刷費その他の値上りで年間同額或はそれ以上の赤字が見込まれますので44年度より会費の値上げをしなければならなくなりませんでした。次の項をごらんください。

差引残金なし

昭和四十三年度予算について

これも時期的に大へんおくられて四十四年度と間違えられそうですが、これは今回配本しました二冊を含む四十三年度のものですので御了承下さい。

収入の部 昭和42年度決算額

科目	決算額	説明	明
会費	2,933,676	前年度未取分 会費 次年度予納金より (実質的赤字)	2,737,460 59,600 136,616
補助金	350,000	県補助金	
寄附金	0	寄附金	
繰越金	61,338	前年度繰越金	
雑収入	205,046	既刊図書分売費	予金利子
計	3,550,060		

支出の部

科目	決算額	説明	明
人件費	401,155	職員給与費、旅費、賃金	
会議費	39,870	理事会、運営委員会 各種会議費	
原稿料	237,660	原稿料 執筆諸費	
編集費	91,350	資料調査費 編集諸費	
印刷費	2,496,800	文庫四巻印刷費 会報印刷費	
発送費	141,428	郵便料 配本料 自動車料	
事務費	95,947	事務局費 備品費	
諸費	45,850	普及宣伝費	
予備費	0		
計	3,550,060		

差引残金なし

備考 上記に就ては収入の部会費の説明をごらん下さい。そこに次年度予納金よりとして136,616円入っていますが、これは42年度分収入だけでは赤字をきたしたので43年度の分を借入れ充当したわけであり実質赤字となっているわけです。

昭和四十二年度決算について

おくれましたが昭和四十二年度の決算について、その概要をご報告申し上げます。